吉都線の景色と小林の味覚を堪能 吉都線の活性化へビール列車運行

8月9日、吉都線の利用促進と沿線活性化を目的にビール列車が運行されました。小林駅と吉松駅を往復するこの日限りの特別貸切列車には、約40人が乗車。参加者は、小林市産のユズを使用したクラフトビールや地元食材をふんだんに使った特別弁当に舌鼓を打ちながら、車窓からの景色とともに吉都線の魅力を堪能していました。

往復路の途中に停車したえびの駅では、大正元年に作られたレトロな駅舎の見学も行われ、参加者は歴史ある鉄道の魅力を存分に味わっていました

「橋の日」に紙屋大橋歩道橋を清掃 地元中学生らが橋の美化に汗を流す

8月4日、「橋の日」に合わせて、紙屋大橋歩道橋の清掃が行われました。これは、道路や河川の愛護と郷土愛を深めるため、県建設業協会青年部連合会が県内一斉で実施しているもの。当日は、小林地区建設業協会青年部や紙屋中学校の生徒ら約60人が参加。こびりついたコケや側溝にたまった泥などを取り除き、美化活動に汗を流しました。

石川ひかりさん（紙屋中3年）は「地元の橋をきれいに清掃することができてよかった。これからもきれいな状態を維持していきたい」と話しました

郵便局をクーリングシェルターに指定

8月3日、日本郵便株式会社と協定を結び、新たに市内8カ所の郵便局をクーリングシェルターに指定しました。これは熱中症特別警戒アラート発表時などに、市民が暑さをしのぐための避難施設。民間施設の指定は2例目で、市内の指定施設は25カ所になりました。

夏を満喫！家族でにぎわう駅祭り

8月14日、小林駅横のふれあい広場で「駅祭りこばやし」が開催されました。せんぐまきや音楽ライブ、豪華景品が当たる抽選会などに会場は大にぎわい。多彩なキッチンカーも並び、多くの家族連れが美味しいグルメを堪能して小林の夏を満喫しました。

熱戦の西諸支部消防操法大会 第3分団第10部が栄冠に輝く

7月26日、消防団訓練広場で西諸支部消防操法大会が開かれました。小林市からは7月の市大会を勝ち抜いた、ポンプ自動車の部の第10分団第6部（三ケ野山）と、小型ポンプの部の第3分団第10部（西小林）が出場。猛烈な暑さの中、各団員は日頃の厳しい訓練の成果を披露し、第3分団第10部が見事、優勝の栄冠に輝きました。

優勝の喜びに沸く第3分団第10部の団員と幹部ら。今回出場権を獲得した8月22日の県大会では、西諸地区代表としてさらなる高みを目指します

子どもの教育環境の充実に向けて 九州北清株式会社が100万円寄付

7月30日、九州北清株式会社（川井千香子代表取締役社長）が、市に100万円の寄付を行いました。今回で9回目となる寄付金は、同社が指定する子どもの教育環境の充実に関する事業に充てられます。同社は、廃棄物処理事業やリサイクル事業に取り組むほか、地元学生の職場見学を受け入れるなど、地域貢献にも取り組んでいます。

川井代表は「これまで小林市に支えていただいたこともあり、未来の小林市を担う子どもたちに少しでも貢献できれば」とあいさつを述べました

退任の人権擁護委員2人へ感謝状贈呈

6月30日に人権擁護委員を退任した槇光子さんと永井良雄さんへの感謝状伝達式が7月27日に市役所で行われました。長年、市民の人権意識の普及と高揚に尽力した2人には、法務大臣や宮崎地方法務局長などから感謝状と記念品が手渡されました。

人権擁護委員が委嘱されました

人権擁護委員として、堤下真弓さん（写真左）と京保久恵さん（写真右）が委嘱されました。任期は令和11年6月30日まで。現在、市内には10人の人権擁護委員がいます。毎月「人権・行政・なやみごと相談」を開催していますので、気軽に相談ください。（相談日は21ページ）

高齢者の熱中症予防を呼びかけ 市内金融機関の店頭で啓発活動

連日の猛暑により、全国的に多発している熱中症への対策として、熱中症予防の啓発活動を実施しました。この取り組みは、特に熱中症のリスクが高いとされる高齢者をはじめとしたターゲット層に適切な予防行動を周知することを目的に行ったもの。当日は各金融機関の利用客にＰＲグッズやチラシを配り、熱中症対策を呼びかけました。

啓発活動の会場となったのは、宮崎銀行小林支店、小林郵便局、高鍋信用金庫小林支店の3カ所。各店舗の協力を得ながら、地域ぐるみで実施しました

ホテルとの連携で市の魅力をPR 「宮崎観光ホテル こばやしフェア」

8月1日から9月30日までの2カ月間、「小林市×宮崎観光ホテルこばやしフェア2026」を開催中です。来場者に小林市の魅力を再発見してもらうことを目的に実施している同フェアは今年で6回目の開催。期間中は、同ホテル内レストランでの小林市産食材を使った特別メニューの提供や館内売店での特産品の販売などを実施しています。

8月1日には宮崎市の花火大会にあわせてホテル内イベントテラスで特産品の販売などを行うマルシェを開催し、小林市の魅力を広くPRしました

市内中学校部活動

①小林中学校男子ハンドボール部 / 女子ハンドボール部
②小林中学校テニス部
③小林中学校陸上駅伝部
④西小林中学校陸上部
⑤三松中学校剣道部

全国中学校体育大会

【団体競技】
▼三松中学校剣道部
【個人競技】（学年）　※敬称略
▼小林中学校陸上駅伝部　西元俊（3年）

九州中学校体育大会

【団体競技】
▼小林中学校男子ハンドボール部
▼小林中学校女子ハンドボール部
▼三松中学校剣道部
【個人競技】（学年）　※敬称略
▼小林中学校テニス部
中村心咲（3年）／髙野瀬もも（3年）
▼小林中学校陸上駅伝部
黒木陸斗（3年）／若松幸弥（3年）／内木場慶（2年）
河島未来（2年）／吉丸竜聖（2年）／松口彗宙（2年）
木島大稀（1年）／宮山千拓（1年）／四元健二朗（1年）
▼西小林中学校陸上部　栗屋壮志（3年）
▼三松中学校剣道部　植竹奈々（3年）

ー全国・九州大会への意気込みー

・小林中学校男子ハンドボール部　上床陽翔さん（3年）
「九州大会でベスト4に入れるよう、メンバーとコミュニケーションを取りながら、先生や保護者への感謝を忘れず、最後まで全力でプレーしていきたいです」
・小林中学校女子ハンドボール部　里岡青空さん（3年）
「九州大会では、3年生にとって最後の戦いになるので、これまで部活を支えてくれた人たちへの感謝を忘れず、最後まで一生懸命プレーしていきたいです」
・小林中学校テニス部　中村心咲さん（3年）
「日々の練習の成果を発揮し、一戦一戦を大事に戦い、最後まで諦めずにプレーしたいです」
・小林中学校陸上駅伝部　西元俊さん（3年）
「大会までの準備を怠らず、本番で自己ベストが出せるよう精いっぱい頑張りたいです」
・西小林中学校陸上部　栗屋壮志さん（3年）
「初めての九州大会ですが、3段飛びで決勝に残れるよう全力を尽くしたいです」
・三松中学校剣道部　植竹奈々さん（3年）
「宮崎県代表としての誇りとこれまで支えてくれた人の感謝を忘れず、一戦必勝で戦いたいです」

九州大会・全国大会に出場するスポーツ団体が市長を表敬訪問
宮崎県代表の誇りを胸に、大会での活躍を誓う

各種県大会を勝ち抜き、九州大会や全国大会に出場を決めたスポーツ少年団や中学校部活動などをはじめとする選手たちが市長を訪問。県大会の報告と上位大会への意気込みを話し、市長が激励しました。

①小林新体操クラブ

各種県予選を勝ち抜き、8月1日、2日に佐賀県で開催される第40回九州小学生体操大会、8月3日、4日に長崎県で開催される九州中学生新体操大会、9月19日～21日に佐賀県で開催される第40回かささぎ杯ジュニア新体操競技会に出場します。メンバー全員で息の合った迫力ある演技を披露し、上位入賞を目指します。

②折田依知果さん（TEN トランポリンクラブ）

8月12日、4月に福岡県で開催された第20回全九州トランポリン競技選手権大会で3位、7月に群馬県で開催された第12回全日本トランポリン競技ジュニア選手権大会で6位入賞したことを、市長に報告しました。折田さん（野尻小5年）は「次の大会では、表彰台に立てるように頑張りたい」と意気込みを話しました。

③三松野球スポーツ少年団

6月に開催された第57回宮崎県学童軟式野球大会で、3位入賞し、8月15日から福岡県で開催されるモダンプロジェカップ第15回全九州学童軟式野球大会に出場します。八重尾空楽主将（三松小6年）は「県を代表して、チーム全員の力を合わせ、三松野球らしい試合ができるように頑張りたい」と大会への意気込みを話しました。

④東心館道場

5月に開催された第41回宮崎県道場少年剣道大会でベスト8に入り、8月28日から東京都で開催される第60回記念全国道場少年剣道大会に出場します。出水倫太郎さん（東方中3年）は「初めて全国大会に出場するが、楽しんで試合に挑みたい。3人で力を合わせて一戦一戦を大切に頑張りたい」と意気込みを話しました。

⑤高原少年バレーに所属する小林市内在住の選手たち

6月に開催された第46回全日本バレーボール小学生大会宮崎県大会で、高原少年バレーが男子の部で優勝し、8月3日から東京都で開催される第46回全日本バレーボール小学生大会全国大会に出場します。安井優心さん（小林小6年）は「一戦一戦を大事に戦って、日本一を目指したい」と大会への意気込みを話しました。

⑥小林太陽クラブ

6月に開催された第41回宮崎県学童選抜軟式野球大会で3位入賞し、8月15日から鹿児島県で開催される桜島争奪戦 第5回鹿児島学童親善招待野球大会に出場します。高津佐禎虎主将（小林小6年）は「暑さに負けず最後まで戦い抜き、九州大会で優勝したい。そして、小林市を盛り上げていきたい」と意気込みを話しました。